

【講師紹介&概要】

石川智也（いしかわ のりや）

西村あさひ法律事務所フランクフルトオフィス・デュッセルドルフオフィス代表 弁護士・ニューヨーク州弁護士

西村あさひ法律事務所の欧州拠点であるフランクフルト事務所とデュッセルドルフ事務所の共同代表を務める。コーポレート・M&A、知的財産法、コンプライアンス案件、リストラクチャリング案件、各国のデータ保護法への対応など企業法務全般を幅広く手がけており、日本経済新聞社による「2019年に活躍した弁護士ランキング」では、データ関連分野（企業票＋弁護士票）で1位にランクインしているほか、週刊東洋経済（2020年11月7日号）特集の「依頼したい弁護士」において、IT・個人情報・ベンチャー分野で選出されている。各国のデータ保護法への対応については、これまで優に100社を超えるGDPR対応を支援しているほか、海外の専門家とともに、海外のグローバル企業の日本の個人情報保護法への対応も多く支援しており、グローバルでのサービス展開のための仕様設計、各種データ関連契約のストラクチャー、データ漏えいへの対応について最先端のプラクティスに基づいたサービスを提供している。

2005年 東京大学法学部第一類卒業

2006年 西村あさひ法律事務所入所

2015年 University of Virginia School of Law 修了（LL.M.）

2016年 Munich Intellectual Property Law Center 修了（LL.M.）

2020年 西村あさひ法律事務所フランクフルト&デュッセルドルフ事務所共同代表

【概要】近時、サイバーアタックにより個人データが漏えいするケースが増えてきています。

本講演では、サイバーアタックの動向と対処、サイバーアタックにより個人データの漏えいが疑われる場合のGDPR上の当局・データ主体への通知について、本社・欧州拠点の双方から支援している講師の経験も踏まえ、お話しさせていただきます。

Dr. ヘルマン・グンプ

DJW 特別顧問 サイバーセキュリティ・データ保護, Enobyte GmbH 代表

ミュンヘン大学で物理学を専攻、2005年にディプロムを終え、2009年に博士号（自然科学）を取得。日本では、ドイツの複合大企業の幹部候補生プログラムに参加したほか、東京の国立情報学研究所（NII）に在籍する。DJWの特別顧問サイバーセキュリティ・データ保護、さらにバイエルン独日協会の理事会会員を務める。2018年より、Enobyte GmbHの代表取締役として、日本ならびにドイツをはじめとするヨーロッパ各地の企業のデータ保護とITセキュリティに関するサポートを行なっている。

【概要】DPOの仕事は、リスクと企業の利益のバランスをとることです。そのため、「どの程度のサイバーセキュリティが必要か」という質問をよく受けます。この質問について、最近実際に起きた例をいくつか挙げて詳しく説明したいと思います。

足立照嘉（あだち てるよし）

Cyber DD 代表

ロンドンを拠点に活動するサイバーセキュリティ専門家。サイバーセキュリティ企業の経営者としておよそ20年の経験を持ち、国内外の通信会社やIT企業などのサイバーセキュリティ事業者へ技術供給およびコンサルティングを提供。大手外資系金融機関のサイバーセキュリティ顧問なども兼任。日本を代表する企業経営層からの信頼も厚い。また、サイバーセキュリティ関連技術への投資や経営参画なども行っている。メディア出演や雑誌・ウェブへの執筆により啓発を行っており、著書である『サイバー犯罪入門』『GDPRガイドブック』はいずれもAmazonランキングで1位を獲得。最新刊『3分ハッキング』発売中。大阪大学大学院工学研究科共同研究員。

【概要】昨年だけでも各国機関よりサイバーセキュリティのフレームワークやガイドラインが新たに数十も発表されましたが活用できていますか？「どうも今ひとつ」「よくわからない」「活用しきれていない」などなど、いったい何が問題なのでしょう。本セミナーではIT部門だけでなく経営層やリスク管理部門に向けて、「サイバーリスク対応への第一歩」のための「第一歩」についてお話をさせていただき、サイバーリスクへの対策・対応がより効果的・効率的に実践していけるようなヒントと気づきをお伝えさせていただきます。